



洗足学園中学高等学校・08年国連高校生会議派遣メンバー



青島健太、国連会議場をうならせた洗足「ドリームチーム」4人の知性と情熱に感動

学校はいろいろな感動であふれています。スポーツライターの青島健太が学校を訪ね、自らの感激を熱くレポートします。第5回は洗足学園を訪問、3月に学園を代表して国連高校生会議に参加した4人にお話を伺いました。

Senzoku Gakuen Junior & Senior High School



To My Senzoku Dream Team,

I was so impressed with your hard work and enormous effort to prepare for the UNIS-UN conference and the film competition. You did an amazing job and certainly impressed the international audience at the General Assembly of the United Nations! I was, and am, proud of you all; Bravo!

Fondly, Ms. Kenney

Kenta Aoshima was moved by the intelligent and enthusiastic "Dream Team Girls" who impressed the whole General Assembly of the United Nations.



Knowledge=Action=Nothing

学校の掲示板に貼り出された募集要項。内容はすべて英語で次のようなことが書かれていた。
UNIS=UN2008SG
Representative Competition
国連高校生会議にSG(洗足学園)から派遣される代表選考会。今年で32回目を迎える国連高校生会議。実際に国連の議場を使い世界中の高校生が決められたテーマで議論する。2008年はエネルギー問題をテーマに(The Pursuit of Energy: A Catalyst for Conflict)3月6、7日の両日、ニューヨークの国連本部で開催される。学内のコンテストは以下の通り実施する。

STEP 1(エッセイ12/10)
トに興味を持ち、環境問題やエネルギー問題を自分なりに勉強してきた人たちだ。代表に決まった嬉しさのあまり泣いてしまった人もある(誰なのかは秘密にしておきましょう)。
派遣が決まった喜びに浸る間もなく、4人はフィルムコンテストに応募する映画作り(3~5分)に着手する。2日間の会議は、ゲストスピーカーの講演に始まり、テーマに沿ったディベートやパネルディスカッションを行ない、最後に応募された映画の中から優秀な作品が上映されることになっていた。

STEP 2(リスニング12/11)
STEP 3(インタビュ12/13)
STEP 4(ディスカッション12/14)
Good Luck Everyone!
Ms. Kenney
ミス・ケニーはこの派遣を担当する英語の先生。「本当は応募者全員を行かせてあげたいんですが」と両手を平げたが、「でも代表が行くだけでも生徒たちにとって

4人はテーマ通り、街に出てエネルギーを追いかけてみる(The Pursuit of Energy)。24時間ありとあらゆるところで消費され続けているエネルギー。エネルギーをまったく使わないなんてできるはずがない。それでも今の状態が少しでもよくなる解決策はどこにあるのか(A Catalyst for Conflict)。4人は議論を重ねる。
「日本にはすばらしい技術がたくさんあるのに、そうしたものが省エネルギーに本当に使われているのか疑問に思いました」と前田さん。「エネルギーをどう使うかということへの関心がまだまだ低いと感じました」と阿部さん。小林さんは「エネルギー問題へのメッセ

ジがまだ足りない」と考え、末松さんはその大切さを知っていても行動に移す人が少ないのでは」と思った。
明確な答えは、依然として見えない。しかし、何をすれば良いかを4人は感じた。
Action(行動)。
みんなで撮ってきた映像を集めて映画はでき上がった。富士山、浴衣、石庭、祭り、日本髪、等々。三味線を音色に次々と日本的なものが紹介されていく。そして一転して現れる東京のエネルギー消費の光景。移しい自動販売機、ガソリンを消費する車の渋滞、街にあふれる広告やネオンサイン。衛星から撮られた夜の日本列島は、見事なほど明るくその輪郭が照らし出されていた。これが今の日本という報告。そして最後に彼女たちのメッセージが大きく映し出される。
Knowledge=Action=Nothing
それが大切だと分かっているても、行動につながらなければ何も生まれない。知識や情報を行動に変えよう。それが彼女たちのたどり着いた結論。

4人が作った作品は、参加80校中3校の優秀賞に選ばれ国連本部で世界中の高校生を前に上映された。そして帰国後、洗足学園でも国連での発表と同様のプレゼンテーションを行ない、全校生徒の喝采を浴びた。
ケニー先生が言う。「自分たちの仲間が世界の高校生と交流する。彼女たちのチャレンジが多くくの生徒の視野を広げ、この学校にある、やればできるという積極性を生み出していると思います。」
今回の派遣を通じて4人は何を感じたのだろうか。「多くの人にメッセージを届ける必要を感じてメディアに興味を持ちました」と小林さん。「エネルギーの需要と供給を科学的に考えたい。理系に進もうと思います」と阿部さん。前田さんは「映画は評価されましたが現実には解決されていない。何かを変えるためにもっと行動力をつけたいと思いました。」
そして末松さんは「前に進みたくないなら、小さな力でも何かやらないければと感じました」と自分の将来を見つめた。
彼女たちがたどり着いた「Knowledge=Action=Nothing」という考え方は、では知識や情報に行動が伴ったら何が生まれるのだろうか。その答えも彼女たちのチャレンジが教えてくれた。
「Knowledge+Action=Something Great!
将来の偉大な何か、まちがいないこの学園(SG)で育まれている。」

4人が作った映像に対して学校に送られた「優秀賞」の賞状。
「日本代表」の席に座る。右から末松さん、前田さん、阿部さん、小林さん。

国連の会議場にて今回参加した「ドリームチーム」4人と引率のケニー先生。

